

プログラム Program

大会長講演

招聘講演

特別シンポジウム

シンポジウム

ディベート

マルコ・ポーロ医学賞

ランチョンセミナー

一般口演

ポスター発表

大会長講演 President's Address

大会長講演 7月20日(土) 9:00~9:20 第1会場 (研修棟5階 大会議室)

「忘れることのできないマラリア症例」

狩野繁之

第17回日本渡航医学会学術集会 大会長

独立行政法人 国立国際医療研究センター(NCGM) 研究所 熱帯医学・マラリア研究部 部長

招聘講演 Invited Lecture

招聘講演 1 7月20日(土) 11:15-12:00 第1会場 (研修棟5階 大会議室)

司会:加藤康幸 (NCGM 国際感染症センター(DCC)国際感染症対策室 医長)

「Current topic on malaria prophylaxis and treatment for international travellers」

Srivicha Krudsood

Professor, Faculty of Tropical Medicine, Mahidol University, Thailand

招聘講演 2 7月20日(土) 11:15-12:00 第2会場 (研究所地下1階 会議室 AB)

司会:増山 茂 (東京医科大学病院渡航者医療センター 兼任教授)

「病気に負けない健康登山:海外にも進出する中高年トレッカー」

齋藤 繁

群馬大学大学院医学研究科脳神経病態制御学講座麻酔神経科学分野 教授

シンポジウム Symposium

特別シンポジウム 7月20日(土) 14:00~15:30 第1会場 (研修棟5階 大会議室)

「公務で在外で働く人びとの健康を守る」(看護部会と共同企画)

司会: 中村安秀 (大阪大学大学院人間科学研究科 教授)

1. 在外日本国公館職員・家族の健康を守る(医務官の役割)

美甘克明 (外務省診療所 所長)

2. 在外で働く JICA 関係者への支援 ~途上国支援の現場での健康管理~

名嶋律子 (JICA 国際協力人材部健康管理課 主任看護師)

3. 国際平和協力隊員の健康を守る

高橋亮太 (陸上自衛隊開発実験団部隊医学実験隊 三等陸佐)

シンポジウム 1 7月20日(土) 15:30~17:00 第1会場 (研修棟5階 大会議室)

「旅行業界とトラベルメディスン分野の情報共有」(JATAとJSTHとの連携企画)

座長: 渡邊 浩 (久留米大学医学部感染医学講座臨床感染医学部門 教授)

濱田篤郎 (東京医科大学病院渡航者医療センター 教授)

1. 海外での感染事例とその対応および背景

砂川富正 (国立感染症研究所感染症疫学センター第2室 室長)

2. 旅行業界を取巻くリスク

米谷寛美 (一般社団法人日本旅行業協会 参与)

3. 感染症をはじめとするトラベルメディスンの現状について(1)

武藤修一 (株式会社ジェイティービー旅行事業本部 業界対応・危機管理担当部長)

4. 感染症をはじめとするトラベルメディスンの現状について(2)

谷合一浩 (株式会社エイチ・アイ・エス CS 統括兼いいたび研究室 室長)

5. 旅行業協会と医療サイドの情報共有のポイント

渡邊 浩 (久留米大学医学部感染医学講座臨床感染医学部門 教授)

シンポジウム 2 7月20日(土) 15:30~17:00 第2会場 (研究所地下1階 会議室 AB)

「在留邦人の歯科対応の現状について」(企画:日本渡航医学会歯科部会)

座長: 阿部 智 (帝京大学医療技術学部)

萩原麻美 (東京小児療育病院歯科)

1. ドバイにおける歯科医療の現状:企業の立場から考える」

西山佳秀 (デンタルサポート株式会社総合研究所)

2. 「日本への留学を活かしたバンコク在留邦人患者への対応」

トンチャイ ワチュラロパイサン (チュラロンコン大学歯学部)

3. 「中華人民共和国における在留邦人の歯科医療事情:天津市の事例をもとに」

張 健 (南開大学口腔医学院)

シンポジウム 3 7月21日(日) 13:15~14:45 第2会場 (研究所地下1階 会議室 AB)

「海外邦人や医療過疎住民を対象とした遠隔メンタルヘルス支援の試み」

座長: 鈴木 満 (外務省メンタルヘルス対策上席専門官)

1. 遠隔支援者間の情報共有と遠隔相談のための新しいツール「スマートアウトリーチ」

○鈴木 満^{1, 2, 3)}、上田雅士³⁾、長谷川朝穂^{3, 4)}

(外務省 メンタルヘルス対策上席専門官¹⁾、岩手医科大学神経精神科学講座 客員准教授²⁾、
特定非営利活動法人心の架け橋いわて・理事³⁾、公德会若宮病院 院長⁴⁾)

2. 海外在留邦人のメンタルヘルスと遠隔心理支援の可能性

長江信和^{1, 2)} (福岡大学人文学部 准教授¹⁾、一般社団法人日本遠隔カウンセリング協会 理事²⁾)

3. チェンマイ(タイ)在住ロングステイヤーへの遠隔健康相談の現状と展望

徳田雅明 (香川大学医学部 教授・国際交流委員長)

4. ITを用いた海外遠隔医療支援の可能性を探る

浅井貴浩 (株式会社リコーネットワークアプライアンス事業部)

ディベート Debate

ディベート 7月21日(日) 13:15~14:45 第1会場 (研修棟5階 大会議室)

進行: 狩野繁之 (国立国際医療研究センター研究所 部長)

「マラリアの予防と治療—私ならこうする」

論客(debater): 中村(内山)ふくみ (奈良県立医科大学病原体・感染防御医学講座 准教授)

氏家無限 (国立国際医療研究センター 客員研究員)

マルコ・ポーロ医学賞 Marco Polo Medical Award

平成 24 年度マルコ・ポーロ医学賞受賞者講演

7 月 21 日(日)14:45～15:25 第 1 会場 (研修棟 5 階 大会議室)

座長: 尾内一信 (川崎医科大学小児科学講座 教授)

1. 当院における輸入マラリア症例のまとめ

亀田和明 (大阪市立総合医療センター感染症センター)

2. 多言語医療支援システムの研究開発

瀧澤清美 (群馬大学医学部附属病院医療情報部)

ランチョンセミナー Luncheon Seminar

ランチョンセミナー 1 7 月 20 日(土)12:00～12:50 第 1 会場 (研修棟 5 階 大会議室)

(共催: グラクソ・スミスクライン株式会社)

司会: 狩野繁之 (国立国際医療研究センター(NCGM) 研究所 熱帯医学・マラリア研究部長)

「国際感染症から人びとを守る」

講師: 大曲貴夫 (NCGM 国際感染症センター センター長)

ランチョンセミナー 2 7 月 20 日(土)12:00～12:50 第 2 会場 (研究所地下 1 階 会議室 AB)

(共催: アステラス製薬株式会社・一般財団法人 化血研)

司会: 濱田篤郎 (東京医科大学病院渡航者医療センター 教授)

「渡航者のインフルエンザ対策～ワクチンへの期待は？」

講師: 中野貴司 (川崎医科大学附属川崎病院小児科 教授)

ランチョンセミナー 3 7 月 21 日(日)12:00～12:50 第 1 会場 (研修棟 5 階 大会議室)

(共催: サノフィパスツール株式会社)

司会: 木村幹男 (結核予防会新山手病院 診療技術部長・第二内科長)

「やっと来た！トラベラーズワクチンの春 ～とくに腸チフスワクチン、髄膜炎菌髄膜炎ワクチンについて～」

講師: 尾内一信 (川崎医科大学小児科学講座 教授)

一般演題（口演） Oral Presentation

演題番号に*印がついた発表は、マルコ・ポーロ医学賞選考対象

一般口演 1 7月20日(土)9:20~10:10 第1会場（研修棟5階 大会議室）

「トラベルクリニックサポート」

座長：大越裕文（航仁会渡航医学センター西新橋クリニック 院長）

O1-1 鹿児島県で渡航外来業務を開始して

○久保園高明
済生会鹿児島病院内科

O1-2* 和歌山県でのトラベルクリニック開設1年の現状

○大津聡子^{1,2)}、古宮伸洋^{1,2)}、久保健児¹⁾、大棟浩平^{1,3)}

1)日本赤十字社和歌山医療センター感染症内科部、2)同国際医療救援部、3)同腎臓内科

O1-3* ワクチン外来における電子カルテ導入に際しての問題点

○竹内正幸¹⁾、池田葉子²⁾、加藤知佳²⁾、寺崎美保²⁾、茂木彩乃²⁾、有友由美子²⁾、
黒瀬優輔¹⁾、小池三奈美³⁾、松浦克彦¹⁾、鬼頭敏幸⁴⁾、鶴澤正仁^{4,5)}

1)愛知医科大学病院薬剤部・ワクチン外来、2)愛知医科大学病院小児科・ワクチン外来、

3)愛知医科大学病院看護部、4)愛知医科大学医学部小児科学講座、5)あま市民病院管理監

O1-4* 世界一周旅行者を対象としたアンケート調査解析

○日高秀信、渡邊 浩
久留米大学医学部感染医学講座臨床感染医学部門

一般口演 2 7月20日(土)10:10~11:00 第1会場（研修棟5階 大会議室）

「トラベルヘルス看護業務／医療通訳」

座長：波川京子（川崎医療福祉大学医療福祉学部保健看護学科 学科長・教授）

O2-1* トラベルヘルス業務に従事する看護職の役割と教育に関する実態調査

○佐藤菜保子¹⁾、宮本洋子²⁾、梅村聖子³⁾、多賀昌江⁴⁾、波川京子⁵⁾、Sheila K Hall⁶⁾、Irmgard Bauer⁷⁾

1)Travel health に従事する看護職の役割-三国間比較研究班、2)東京検疫所、

3)東京医科大学病院渡航者医療センター、4)札幌市立大学、5)川崎医療福祉大学、

6)TREC Ltd、7)JamesCook University

O2-2* 海外在留邦人の健康管理 ～シンガポールの現地採用者に焦点をあてて～

○山田杏子^{1,2)}、森 淑江¹⁾

1)群馬大学大学院保健学研究科、2)現勤務先 公益財団法人脳血管研究所附属美原記念病院

O2-3 地域の基幹病院（一般病院）での難民を対象とした医療の1症例

○党 雅子^{1,2)}、日谷明裕¹⁾、黨 康夫²⁾、春木宏介¹⁾

1)獨協医科大学越谷病院臨床検査部、2)同愛記念病院アレルギー呼吸器科

O2-4 「滋賀県多言語医療通訳ネットワーク」事業開始後一年を経過して

○井田健^{1,2)}、米澤寿裕^{1,2)}、神谷直樹^{1,2)}、日置康志^{1,3)}、川添芽衣子^{1,3)}、室谷史典^{1,4)}

1)滋賀県多言語医療通訳ネットワーク協議会、2)公立甲賀病院、

3)済生会滋賀県病院、4)長浜赤十字病院

一般口演 3 7月20日(土)17:00~18:00 第1会場 (研修棟5階 大会議室)

「海外赴任／酸素療法」

座長：古閑比斗志 (医療法人社団佳有会品川イーストクリニック 副院長)

O3-1 海外赴任候補者に対する健康スクリーニング

○大越裕文^{1,2)}、井上 淳²⁾、佐古久美子²⁾、下雲恵子²⁾、男谷益孝²⁾

1)航仁会渡航医学センター西新橋クリニック、2)出光興産診療所

O3-2 企業病院としての渡航外来

○宮城 啓、野中正治、長部雅之

三菱重工業株式会社長崎造船所病院内科

O3-3* 在宅酸素療法導入患者の海外渡航についての調査

○栗田 直、福島慎二、増山 茂、濱田篤郎

東京医科大学病院渡航者医療センター

O3-4 海外でも怖いSAS患者:CPAP管理にご注意を

○増山 茂¹⁾、福島慎一¹⁾、濱田篤郎¹⁾、安藤隼人²⁾、安藤真由子³⁾、原田智紀⁴⁾、堀井昌子⁵⁾

1)東京医科大学病院渡航者医療センター、2)スマートコーチング、3)三浦ドルフィンズ、

4)日本大学医学部機能形態学系、5)神奈川県予防衛生協会

一般口演 4 7月20日(土)17:00~18:00 第2会場 (研究所地下1階 会議室 AB)

「口腔歯科領域／メンタル／大気汚染」

座長：仲本光一 (外務省・在カナダ日本大使館医務官)

O4-1 DNA Banking (バンキング)

○岩崎茂則

岩崎歯科クリニック

O4-2 海外勤務者とその家族における食の支援に関する基礎的調査

○萩原麻美¹⁾、田中健一¹⁾、槻谷治文²⁾、倉林英彦²⁾

1)社会福祉法人鶴風会東京小児療育病院、2)一般財団法人海外邦人医療基金

O4-3 チャイナ・プラス・ワン駐在のメンタルヘルス支援に向けた現状調査報告

○勝田吉彰

関西福祉大学

O4-4* インドの大気汚染と粒子状物質(PM10及びPM2.5)について

○金武和人

在インド日本国大使館

O4-5* よりよい医療アドバイス提供をめざしてー中国大気汚染の事例から学ぶー

○湯井真紀子¹⁾、内海さおり¹⁾、岡 由美¹⁾、町田由紀¹⁾、森 朋有¹⁾、矢地 孝¹⁾、山下明子²⁾、安藤裕一¹⁾

1)インターナショナル SOS ジャパンメディカルディパートメント

2) インターナショナル SOS 北京クリニック

一般口演 5 7月21日(日)9:20～10:30 第1会場 (研修棟5階 大会議室)

「感染症」

座長： 春木宏介 (獨協医科大学越谷病院臨床検査部 教授)

O5-1 マニラ日本人社会の2010年度～2012年度インフルエンザ流行状況報告

○菊地宏久¹⁾、Joel B Garcia²⁾

1)海外邦人マニラ日本人会診療所駐在、2)マニラ日本人会診療所

O5-2 アジア太平洋デングウイルス感染症講習会(Third Asia-Pacific Dengue Workshop)に参加して

○吉川みな子

京都大学グローバル生存学大学院連携ユニット

O5-3* アジスロマイシン経口投与による治療への反応を認めなかった *Salmonella Paratyphi A* の再発例

○小林鉄郎、早川佳代子、加藤康幸、竹下 望、忽那賢志、藤谷好弘、馬渡桃子、
金川修造、大曲貴夫

(独)国立国際医療研究センター 国際感染症センター

O5-4* マラリア予防内服終了後に発症した卵形マラリアの2例

○藤谷好弘¹⁾、早川佳代子¹⁾、加藤康幸¹⁾、竹下 望¹⁾、忽那賢志¹⁾、馬渡桃子¹⁾、小林鉄郎¹⁾、
金川修造¹⁾、狩野繁之²⁾、大曲貴夫¹⁾

1)国立国際医療研究センター 国際感染症センター、2)同 研究所

O5-5 渡航医学における住血吸虫症 –メコン住血吸虫症を中心に考える–

○大前比呂思¹⁾、桐木雅史²⁾、林 尚子²⁾、千種雄一²⁾、

Eyal Leshem³⁾、Eyal Meltzer³⁾、Esther Marva³⁾、Eli Schwartz³⁾

1)国立感染症研究所寄生動物部、2)獨協医科大学国際教育センター

3)Chaim Sheba Medical Center, Tel Hashomer, Israel

演題番号に*印がついた発表は、マルコ・ポーロ医学賞選考対象

一般口演 6 7月21日(日)10:30~12:00 第1会場(研修棟5階 大会議室)

「ワクチン」

座長: 金川修造(国立国際医療研究センター国際感染症センタートラベルクリニック 医長)

- O6-1* 精製ニワトリ胚細胞狂犬病不活化ワクチンを用いた狂犬病曝露前接種の異なった接種スケジュール間における抗体産生効果比較検討
○三島伸介^{1,2)}、吉川みな子³⁾、下埜敬紀¹⁾、中谷逸作^{1,2)}、石崎浩之^{1,2)}、三宅眞理¹⁾、神田靖士¹⁾、西山利正^{1,2)}
1)関西医科大学公衆衛生学講座、2)関西医科大学附属滝井病院海外渡航者医療センター、3)京都大学グローバル生存学大学院連携ユニット
- O6-2 狂犬病ワクチンの曝露後接種について
○宮津光伸、菊池 均¹⁾、後藤泰浩²⁾、山本悦子³⁾
1)名鉄病院予防接種センター、2)総合上飯田第一病院小児科、3)山本ウイメンズクリニック
- O6-3 東京医科大学病院渡航者医療センターにおける小児へのA型肝炎、腸チフスワクチン接種状況
○大野ゆみ子、福島慎二、廣幡智子、梅村聖子、水野泰孝、濱田篤郎
東京医科大学病院渡航者医療センター
- O6-4* 日本人渡航者への不活化ポリオワクチン追加接種
○福島慎二¹⁾、中野貴司²⁾、清水博之³⁾、水野泰孝¹⁾、濱田篤郎¹⁾
1)東京医科大学病院渡航者医療センター、2)川崎医科大学小児科学、3)国立感染症研究所ウイルス第2部
- O6-5* トラベルクリニックにおける未承認ワクチンの使用状況とニーズ調査
○福島慎二¹⁾、濱田篤郎¹⁾、尾内一信²⁾
1)東京医科大学病院渡航者医療センター、2)川崎医科大学小児科学
- O6-6* わが国のプライマリ・ケア医の成人に対するMRワクチンの接種推奨の割合と接種推奨に関連する因子および接種推奨の障壁
○坂西雄太¹⁾、原めぐみ²⁾、福森則男¹⁾、草場鉄周³⁾、田中恵太郎²⁾、杉岡 隆¹⁾、日本プライマリ・ケア連合学会ワクチンに関するワーキンググループ⁴⁾
1)佐賀大学医学部地域医療支援学講座総合内科部門、2)佐賀大学医学部社会医学講座予防医学分野、3)北海道家庭医療学センター、4)日本プライマリ・ケア連合学会
- O6-7* わが国のプライマリ・ケア医のトラベラーズワクチンの接種推奨の割合と接種状況
○坂西雄太¹⁾、原めぐみ²⁾、福森則男¹⁾、草場鉄周³⁾、田中恵太郎²⁾、杉岡 隆¹⁾、日本プライマリ・ケア連合学会ワクチンに関するワーキンググループ⁴⁾
1)佐賀大学医学部地域医療支援学講座総合内科部門、2)佐賀大学医学部社会医学講座予防医学分野、3)北海道家庭医療学センター、4)日本プライマリ・ケア連合学会

演題番号に*印がついた発表は、マルコ・ポーロ医学賞選考対象

一般演題（ポスター発表） Poster Showcase

ポスター展示 第3会場（研究所地下1階 中会議室）

7月20日(土) 11:15~17:00, 7月21日(日) 08:00~14:45

P-1 原子力発電所事故医療と渡航医学

○原口義座^{1,2)}、友保洋三²⁾、西法正^{2,3)}、星野正巳²⁾、酒井基広²⁾

1)京葉病院外科、2)災害医療大系編纂グループ、3)国立病院災害医療センター

P-2 北京の日系診療所に勤務する日中スタッフの反日デモ下のふるまい

○田中健一

北京天衛診療所

P-3 狂犬病抗原測定簡易キットによる狂犬病ワクチンの偽薬判定の試み

○菊池 均¹⁾、宮津光伸¹⁾、後藤泰浩²⁾、山本悦子³⁾

1)名鉄病院予防接種センター、2)総合上飯田第一病院小児科、3)山本ウイメンズクリニック

P-4 インドネシアバリ州における蚊の発生源除去を促すアドボカシーの取り組み例

○吉川みな子¹⁾、Rita Kusriastuti²⁾、Agus Suwandono^{3,4,5)}、三島伸介^{6,7)}、西山利正^{6,7)}

1)京都大学グローバル生存学大学院連携ユニット、2)世界保健機関南東アジア地域事務局、

3)インドネシア保健省、4)ディポネゴロ大学、5)インドネシア保健研究者協会、

6)関西医科大学附属滝井病院海外渡航者医療センター、7)関西医科大学公衆衛生学講座

P-5 雨季のインドシナ半島への旅行でデング熱に罹患した2例

-血小板輸血を行った1例と医師が罹患しセルフケアした1例-

○中谷逸作^{1,2,3)}、三島伸介^{1,2,3)}、石崎浩之¹⁾、下埜敬紀²⁾、

神田靖士²⁾、古賀康史⁴⁾、西山利正^{1,2,3)}

1)関西医科大学附属滝井病院海外渡航者医療センター、2)関西医科大学公衆衛生学講座

3)医療法人瑠璃会 AY クリニック、4)昭和大学形成外科学講座

P-6 海外派遣労働者家族(配偶者)の生活への適応に関連する因子

○青柳美樹¹⁾、山崎恭子²⁾、津田紫緒³⁾

1)国際医療福祉大学小田原保健医療学部看護学科、2)東海大学健康科学部看護学科、

3)東京医科歯科大学医学部保健衛生学科